



池田名誉会長

光の言葉
幸福の曲

「小さな集い」こそ 勝利の「港」

スウェーデンの首都・ストックホルムは、バルト海とメーラレン湖に囲まれた「水の都」。運河の至る所に港があり、コバルトブルーの水面を行き交う白い船がまぶしい。

1989年（平成元年）6月、池田

名誉会長が撮った1枚である。

向こう岸の右側にある大きな建物は、スウェーデン王宮。名誉会長は滞在中の6月5日、ここにグスタフ国王御夫妻を表敬した。

港は、海にも陸にも開かれている。人が出会い、交流し、新しい

友情が生まれる予感に満ちた場所。港を見れば、心は安らぎ、胸はずむ。

われらには、座談会や婦人部総会など、小単位の語らいの場こそ「港」。ここから、人生と広布の勝利へ、心新たに起航しよう！

「小さな集い」が大切である。
 大きな会合だけでは
 一方通行になる。
 一対一で、
 いい味のある対話ができ、
 人間味のある励ましで
 人を発心させられる人が
 本物である。

その発心こそ長続きする。
 その決意が起爆剤になる。
 その「一波」から
 「万波」が広がる。
 地区は、
 広宣布の「母港」である。
 船が港で燃料や食糧を補給し、



オランダ・アムステルダム市内でメンバーを激励する池田名誉会長。「一対一の励まし」「少人数の語り」に徹する名誉会長の行動を模範に、今日の世界広宣布は開かれてきた（1983年6月）

勇躍、大海に船出していくように、
 わが同志もまた、
 地区から出発し、
 地区に集う。
 地区の繁栄は、
 学会の勝利である。

インド独立の父・ガンジーは、
 どんな地域へも勇んで足を運び、
 少人数の集いを
 最大に重視した。

アメリカの
 公民権運動の父・キング博士も、
 小単位の集会を基軸に
 勝利の波動を広げた。

「最前線」である。

「小単位」である。

「膝詰めの対話」である。

なかならず、「座談会」である。

ゆえに今日も、

希望の語らいのドラマを！

一対一の「草の根の語らい」

——それはまことに地味である。

しかし

「人と人とのつながり」を

つくっている。

人の心を変え、意見を変えている。

この粘り強い

対話の繰り返しこそが、

時代を底流で変えていく。